

所報

INSTITUTE OF BUSINESS RESEARCH
COLLEGE OF ECONOMICS
NIHON UNIVERSITY

No. 78

展望

情報化社会がより日常的な生活に浸透している。代表的なのが SNS の普及である。かつて、国民背番号が議論されてきた。それは遠い昔のように思われる。メールアドレス、携帯電話の番号は、その国民背番号以上の個人情報である。それらのこれまでにない情報化社会において産業経営も大きな変化のうねりの中にある。それがまさにビッグデータ社会である。例えばマーケティング活動において、より消費者行動を把握するためには SNS などのデータは貴重である。それらの動向に今回の所報は対応した研究を掲載している。

一つは、大阪大学産業科学研究所・准教授古崎晃司氏の「LOD (Linked Open Data) の動向と今後の展望」と題した講演録である。古崎氏の研究はまさにビッグデータ時代の選先端的な研究である。多様に存在する公共的データをネットワーク化し、あらゆる分野に活用しようという試みの研究である。その講演は、われわれの今後の研究にこれまでにない示唆を与える。さらに、日本電気株式会社第二官公ソリューション事業部応用プロダクトビジネス統括部・主幹坂本静生氏による「社会・企業・団体の価値創造に向けたビッグデータ活用一特に顔画像利用について」と題する講演録である。坂本氏の研究は、企業だけではなく公共部門も含めた社会的活動の高度化に資するものである。空港におけるテロ対策から、さらには POS 情報の高度化まで幅広い汎用性を持った研究である。具体的には、POS 情報で売れ行き情報ではなくいわば「品切れ」情報までも活用出来る例は注目すべきであろう。

この二つの講演録に加え二つの研究報告も掲載している。一つが平野文彦氏（日本大学経済学部元教授）を研究代表とした産学連携研究であり、ビジネスの現場における人材の育成問題を IT 産業など個々の産業部門で検討している。あと一つの研究報告は、本学教授安田静氏を代表とした研究報告である。論題は「文化政策と公共文化施設のマネジメントに関する国際比較」である。ここでは「情報」の上位概念と言うべき「文化」を軸に政策とマネジメントが論じられている。「文化」と「ビジネス手法」の関係に焦点を当て、国際的に比較分析をして興味深く論じられている。

以上のように4つの研究は、ビジネス活動と公共的（社会的）活動が複雑に重層的に絡み合う現代の産業経済社会に果敢に挑んだ取り組みといえる。是非ご高覧いただきたい。

（産業経営研究所 江上 哲）